



おきなわ

目 次

- ⑦ シリーズ活動最前線 「まきら保育園」(石垣市)
- ⑥ 共同募金運動 各地で展開！
- ⑤ 県障害者施設研究大会報告
- ④ かりゆし美術展 作品募集
- ② 特集 「矯正施設出所者の福祉サービス利用を支える」
- ④ 沖縄ねんりんピック スポーツ交流大会・文化交流大会
- ⑧ ほっとニュースTOPICS
- ⑩ 「介護の日」関連事業紹介 報告
- ⑪ 第37回国際福祉機器展レポート
- ⑧ 予算対策協議会が26項目の要望書を提出
南風原町に「ちむぐる館」オープン
ボランティア関連研修会 報告



作品名：「不寝の番のシーサー」、撮影：儀間生子さん（那覇市）

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として共同募金配分金を使用させていただいております。

矯正施設出所者の福祉サービス利用を支える

刑期を終え、刑務所等の矯正施設を出所した高齢者や障害者が社会に復帰し、自立した日常生活を行うためには、居場所の確保や福祉サービスにつなげるための適切かつ継続的な支援が必要となる。

今年度より沖縄県社会福祉協議会が受託実施する「沖縄県地域生活定着支援センター」の事業を中心に、矯正施設出所者への支援の必要性について紹介する。

出所後の高齢者・障害者をサポート

沖縄県総合福祉センター東棟2階に開設された「沖縄県地域生活定着支援センター」(以下、センター)では、刑務所等の矯正施設を出所した高齢者や障害

者で、自立が困難な方が福祉サービスを受けられるよう支援を行う。

出所後も引き取り手や居場所がなく、経済的要因や孤独などが背景に、無銭飲食や万引き等の再犯を繰り返す孤立しがちな元受刑者は少なくない。出所後の生活を安定させ、再犯防止につなげるのがセンターの役割の一つである。



▲このたび開設された沖縄県地域生活定着支援センター

センターは県の委託を受け、沖縄県社協が運営するもので、社会福祉士を含む常勤スタッフ4人が配置されている。事業の実施にあたっては、沖縄刑務所や那覇保護観察所などの関係機

関と協働しながら、市町村や福祉事務所との連携に努め、対象者に必要な支援の検討・実施を行っている。

具体的には、障害者手帳、療育手帳の取得や生活保護の需給にかかる申請手続きのサポートや、福祉施設の入所等の斡旋を行う。

沖縄県社協では平成11年度から、認知症高齢者や知的障害・精神障害等により判断能力に不安のある者を対象とした「日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)」において、福祉サービスの利用援助を行っており、センターの事業へのノウハウの活用や連携による支援力強化が期待される。

また、沖縄県社協に設置される各種別協議会(県内の福祉施設が種別ごとに構成する組織)との連携により、県内の福祉施設等への受け入れについて、アンケート調査による協力依頼も予定している。

センターが行う業務とは

センターは次に掲げる業務を矯正施設(刑務所、少年刑務所、少年院)、那覇保護観察所、他県の地域生活定着支援センター、福祉関係機関、地方公共団体その他の関係機関等と連携して行う。(業務イメージ参照)

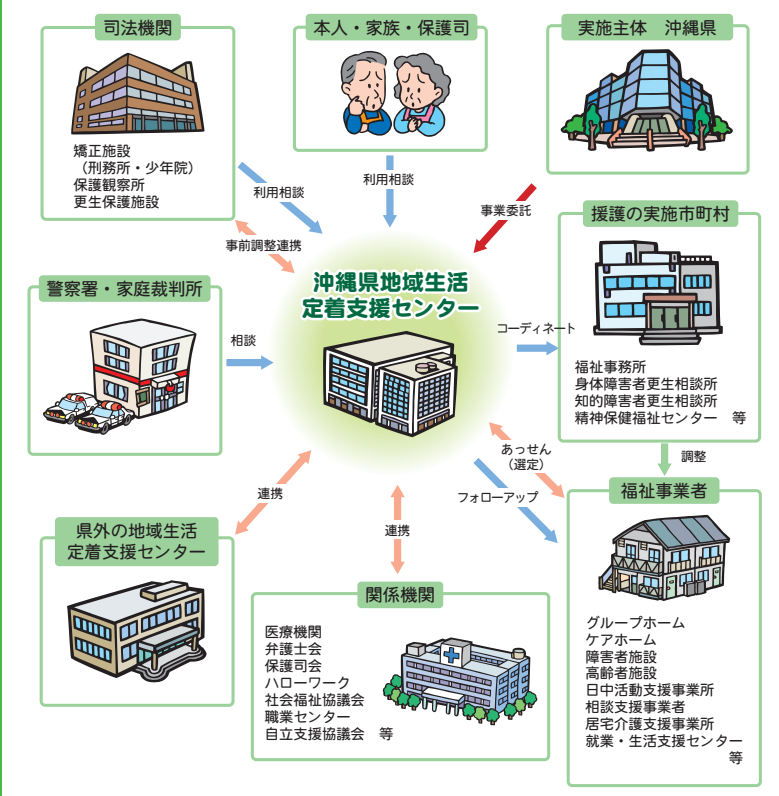
① コーディネート業務

那覇保護観察所からの依頼にもとづき、矯正施設の入所者(65歳以上の高齢者または障害を抱え自立が困難な者)を対象として、福祉サービス等に係るニーズの内容の確認を行い、受け入れ先施設等の斡旋または福祉サービス等に係る申請支援等を次の手順で行う。

ア 面接等の実施

最初に、職員が矯正施設に向かうなどして、本人の意思、

業務イメージ



心身の状況、福祉的なニーズ、本人が福祉サービスを利用する上での問題点等を把握します。

イ 福祉サービス等調整計画の作成

前記で収集した情報にもとづき、本人が矯正施設から出所した後、円滑に福祉サービス等を利用できるようにするための調整に関する計画を作成する。

ウ 受け入れ先施設等の確保、福祉サービス利用に関する調整

前記イの計画に基づき、本人が矯正施設から出所した後の受け入れ先となる社会福祉施設等を確認するための調整を行うとともに、本人に必要なと認められる福祉サービスの申請支援等を行う。

また、他県の地域生活定着支援センターから県内に帰住予定の出所者がいる旨の連絡が入った場合は、福祉サービスの申請の事前準備を支援するとともに、福祉施設等の入所等の斡旋を行う。

② フォローアップ業務

コーディネート業務の調整により矯正施設出所者を受け入れた社会福祉施設等に対して、本人の処遇、本人の福祉サービスの利用等について、助言を行う。

③ 相談支援業務

矯正施設出所者の福祉サービスの利用等に関して、本人またはその家族、福祉事務所、地方公共団体、更生保護施設その他の関係者からの相談に応じて、

助言その他必要な支援を行う。
相談支援の業務には矯正施設入所中にコーディネート業務の支援対象者であった人も含む。

福祉の支援を必要とする出所者たち

～沖縄刑務所の現状から～

高齢者の刑法犯が増加

「犯罪白書2009」によると、近年の一般刑法犯における年齢層別の検挙人員は、65歳未満が減少傾向にあるのに対し、65歳以上の高齢者数は上昇傾向が続いている。

また、人口比の伸び率で見ると、平成元年と比較して20～29歳が約1・3倍、30～39歳が約1・3倍、50～64歳が約2・0倍の伸びに止まっているのに対して、65歳以上の高齢者は3・7倍と急増している。

このように、最近の高齢者犯罪の増加の勢いは高齢人口の増加をはるかに上回っている。

沖縄刑務所の現状

南城市知念にある沖縄刑務所は、全国で唯一、初犯と累犯受刑者を一緒に収容している。定員は489人で、主に県内で刑

が確定した刑期10年未満の男性が入所している。
その約60%の受刑者は、窃盗等の財産犯や飲酒運転等の交通犯である。

沖縄刑務所においても、受刑者の高齢化が進行しており、今年8月末日現在、受刑者約400人のうち、65歳以上の者が約9%、60歳以上は15%を占めており、最高年齢は80歳となっている。

また、心身に疾患のある高齢受刑者は、全体の約35%にも上る。

沖縄刑務所を出所しても、帰る場所がない等の理由で福祉の支援を必要とする高齢者や障害者は約20名おり、その多くは住民票がなかったり、衣類や生活用品、印鑑・通帳、所持金をほとんど持たない等の状況で、出所後の福祉サービス利用につなげる以前の問題も山積みとなっている。

このような中、沖縄刑務所では、受刑者に対して、出所後に福祉サービスが受けられるよう支援に取り組んでいる。

一方で、刑務所による支援には限界がある。例えば、刑期が満了すれば、刑務所を出所させなければならず、出所日には釈放となるため、福祉的支援を必

要とする場合であっても、一般の社会人となった元受刑者には、刑務所が関わることはできない。
矯正施設で行える支援は、自立生活に向けた大まかな道筋をたて、受け入れ先への橋渡しを行うことで、出所後の継続的な支援についてはおのずと限界が生じてしまう。
刑期を終えて社会復帰を迎える者にとって大切なのは、出所の生活であり、高齢や障害からくるハンディを補うための適切な支援が必要である。介護や就労支援といった福祉サービスを利用しながら、地域になじんで生活していくための継続的な関わりについて、センターの担う役割は大きいものと思われる。

沖縄県地域生活定着支援センター

那覇市首里石嶺町4-373-1
県総合福祉センター東棟2階
TEL 098-884-2800
FAX 098-884-3800

スポーツ交流大会・文化交流大会 18競技にて熱戦展開!

高齢者に適したスポーツ文化活動等を通じて明るく活力あふれる長寿社会づくりの促進に寄与することを目的に第2回沖縄ねんりんピック（主催沖縄県、沖縄県社協）を9月24日から26日までの3日間、奥武山運動公園を主会場に実施した。

今年から新たにボウリング、還暦軟式野球、将棋の3競技が加わり、全18競技1759名の選手により熱戦が展開された。

初日は全競技のトップを切って沖縄カントリークラブ（西原町）にてゴルフ競技が行われ、2日目には、県立武道館アリーナ棟において総合開会式を開催した。

開会式の選手宣誓では、グラウンド・ゴルフ競技出場の大久田幸栄さん（68）とラージボール卓球競技出場の有銘艶子さん

（70）が「高齢者の生きがいづくりと健康づくりを県民に広くアピールしたい」と力強く宣誓した。

開会式終了後、各競技会場で熱戦がスタート。年齢を感じさせない気迫あふれるプレーで会場を沸かせる場面やベテランらしい試合運びに観戦者から賞賛の声が上がるなど大いに盛り上がり、スポーツを通して友好の輪が広がった。

上位入賞者（チーム）は、来年熊本県で開催される「第24回全国健康福祉祭くまもと大会（ねんりんピック2011熊本）」への派遣の対象となる。

県社協では競技団体と連携し、次年度以降も全国ねんりんピックに照準をあわせ、種目増も含め、シニア層のスポーツ普及をアピールしていきたいと考えている。

お問い合わせ

沖縄県社会福祉協議会・いきいき長寿センター
Tel (0887) 1344

Fax (0887) 1349



▲真剣勝負の一手（将棋）



▲力強い選手宣誓



▲見事なピッチングフォーム（還暦軟式野球）



▲一投集中（パタンク）



▲熱戦の中踏ん張る（ソフトテニス）



▲ホールインめざして（グラウンド・ゴルフ）



▲息詰まるラリーの応酬（ラージボール卓球）



▲静寂の中での演技（太極拳）

第2回沖縄ねりんピック かりゆし美術展

作品募集

～シニアの創作活動を応援します～

沖縄県社協・沖縄県いきいき長寿センターでは、「第2回沖縄ねりんピックかりゆし美術展」を平成23年1月20日(木)～23日(日)の4日間、県立博物館・美術館企画展示室を会場に開催する。

これは、高齢者の芸術文化活動における参加機会を促すことにより、明るく活力ある長寿社会づくりに寄与することを目的に開催されるもの。

美術展での優秀作品は、来年熊本県で開催される「第24回全国健康福祉祭くまもと大会(ねりんピック2011熊本)美術展」に沖縄県代表作品として出品される。

募集期間は9月17日(金)～12月17日(金)。所定の申込書に必要事項を記入のうえ、郵送またはFAXで申し込む。

募集要項、出品申込書については、沖縄県社協ホームページよりダウンロード可。

(<http://www.okishakyoo.jp>)

募集に関する問い合わせは、

いきいき長寿センターまで。

Tel 887-11344

FAX 887-11349

(担当 藤村)

第2回 かりゆし美術展出品規程

出品者資格	県内在住者で昭和27年4月1日以前に生まれたアマチュアとします。
出品作品 及び出展数	①絵画、彫刻、工芸、書、写の5部門とします。 ②出品作品は1人1点とし、出品者本人により創作されたもので、公募展出展作品以外とします。 市町村や各種サークル等の展示会における発表作品は出品できます。
テーマ	特に定めません。
出展料	1,000円 (保険料に充当します。)



▲第2回募集要項チラシ



発達障害を理解する

～発達3兄弟の謎～

県障害者施設
研究大会報告

「平成22年度沖縄県障害者施設研究大会」(主催・県社協・県心身障害児者施設協議会/県知的障害者福祉協会)が8月28日、豊見城市立中央公民館にて開催され、230名が受講した。

この大会は、発達障害の正しい理解と特性を踏まえた援助方法を学び、利用者の持つ可能性や個性を引き出す支援のあり方について考えることを目的に開催されたもの。(医)謙誠会博愛病院の釘宮誠司院長を講師に招き、「発達3兄弟の謎～君は天才・秀才・冒険家!?～」と題して講演があった。(写真)



釘宮氏は、「発達障害は疾病でなく特性であり、特性は才能である。」と話し、「優れた五感や卓越した認知力・記憶力を持つ自閉症は天才、完璧を求め粘り強く物事に取組むアスペルガー障害は秀才、大胆かつ細心に行動するAD/HDは冒険家である。」と説明した。そして、「天才・秀才、冒険家を育てるには、様々な体験をさせ感性を磨くことが大切。独りを好むが、独りにさせないことが重要。」と強調した。最後に、パニックへの対応、薬物治療等についても触れ、現場で活かせる内容となった。

参加者からは、「発達障害は特別なものではなく、誰もが持っている特性。難しいと感じていた関わり方をポジティブに捉えられるようになった。」などの感想が寄せられ、充実した研究大会となった。

共同募金運動、各地で展開

県内各地で募金運動の出発式が市町村長をはじめ募金ボランティアなど関係者が参加して行われ、募金運動がスタートした。
平成22年度の赤い羽根共同募金運動目標額
2億2575万5000円

赤い羽根空の第一便伝達式を実施

10月1日、沖縄県共同募金会は那覇市共同募金委員会と合同で全日空株式会社の協賛による「第49回赤い羽根空の第一便伝達式」を実施した。会場となったパレットくもじ広場前には多くの関係者・市民が駆けつけた。伝達式では、厚生労働大臣と中央共同募金会会長のメッセージ伝達の後、具志堅グループ琉鵬会、沖縄県金融協会、ジーマ株式会社から大口寄付金の第一号贈呈が行われた。



これを受け、あいさつに立った沖縄県共同募金会の新垣雄久会長は、「今日の社会福祉は、住民自らが地域福祉の担い手となり、自主的な活動を展開していくことが求められる時代となっている。」と関係者を激励した。その後、来賓や関係者による街頭募金活動が行われ、行き交う市民に協力を呼びかけた。また、那覇市共同募金委員会、小緑ジャスコ、久茂地リウボウをはじめとする各ショッピングセンターの協力を得て街頭募金活動を行った。



▲街頭募金の様子

宮古島市、石垣市では 県知事メッセージの伝達式

宮古島市、石垣市では沖縄県知事のメッセージを届ける「赤い羽根空の美ら島便」が10月1日に実施された。日本トランスオーシャン航空の協力により、県知事メッセージと赤い羽根が市長と支会長に届けられ、式終了後は各市内のショッピングセンターに移動しての街頭募金活動が行われた。



▲宮古空港での伝達式

災害義援金へのご協力ありがとうございました 口蹄疫被害の宮崎県・鹿児島県 各共同募金会へ送金

去る4月20日に宮崎県で発生しました口蹄疫に対して、本会がその支援を呼びかけましたところ、貴殿（会）を始め多くの県民から心温まる多額の浄財をお寄せいただきました。

皆様からお寄せいただきました義援金は、被害地の状況を考慮して宮崎県共同募金会へ送金いたしましたことをご報告申し上げますとともに、ご協力に対し厚くお礼申し上げます。

なお、鹿児島県共同募金会においても口蹄疫の協力依頼がありましたが、募集期間等が同時期の為協力依頼の呼びかけはしませんでした。しかし、協力依頼がありましたので、いただいた義援金より鹿児島県共同募金会へ送金しましたことをご了承願います。

ここに改めて、ご協力をいただきました皆様方へ厚くお礼申し上げます。

なお、貴殿からお寄せいただきました義援金の配分状況は下記のとおり、被害地の県共同募金会を通して被害者へ配分されることになっておりますので、ご報告とお礼を申し上げます。

1. 沖縄県共同募金会取扱額	
25件	1,233,880円
2. 送付先及び送金額	
・宮崎県共同募金会	1,000,000円
・鹿児島県共同募金会	233,880円
計	1,233,880円

保護者が一日保育体験

まきら保育園（石垣市）



石垣市新川にある（福）双葉福祉会まきら保育園（那須悦子園長）では、保護者を園に招いての「一日保育士体験」というユニークな取り組みをはじめている。

普段見ることができない子どもたちの園での様子や保育士との関わりを通して園と家庭の連携が図られるとあって関係者から好評を得ている。取材に訪れた日は、会社員の石川勇作・志穂夫妻が、長女ひなちゃん（5歳）の通うキリン組の保育にチャレンジした。

自宅から持参した絵本の読み聞かせにはじまり、朝のホームルーム、

お習字時間のサポート、給食の配膳から後片付けまでの一連の流れを「保育士」として関わった。（写真）体験を終えた父・勇作さんは「先生たちは大変だろうと思った。」と振り返り、母・志穂さんは「一緒に体験できてよかった。他の保育園にない良い取り組みだと思う。」と感想を述べた。

園では26年前から保護者による絵本の読み聞かせを行ってきた。普段は園から遠ざかりがちな父親も子どもたちの反応を楽しみに、率先して協力してきたとのこと。その実践を踏まえ、今年5月から一日保育士体験をスタートさせた。

こうした取り組みについて那須園長は、「核家族化が進む中で、子育て支援と併せて『親支援』をどのようにするかが問われるようになった。園と保護者が一緒になって子どもたちに関わる環境を作ることが大切だ。」と活動の意義を強調した。そして、「園の保育方針や計画を理解してもらうことで、園と家庭で一貫した考えのもとに育児が行える。親も子育てに自信が持てると子どもたちも落ち着いてきます。」とその効果を説明した。

園では今後も4～5歳児クラスを対象に毎月1回のペースで一日保育士体験を続けていくとのこと。

安心を支えます

ボランティア活動保険

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

<http://www.fukushihoken.co.jp>



特長

- 活動場所と自宅との往復途上の事故も補償
- 熱中症（日射病・熱射病）による障害も補償
- ボランティア自身の食中毒や特定感染症も補償
- 地震など天災によるケガも補償（天災タイプご加入の場合）

ボランティア行事用保険

地域福祉活動の一環として行うボランティア活動に関する各種行事におけるケガや賠償責任を補償！

福祉サービス総合補償

ヘルパー・ケアマネージャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

送迎サービス補償

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

年間保険料 Aプラン...280円 Bプラン...420円 天災タイプもあります

※各プランの補償金額、補償内容などの詳細は、専用のパンフレットをご用意しておりますので、取扱代理店にお問合せください。

お申込み、お問合せはあなたの地域の社会福祉協議会へ

社会福祉法人
団体契約者 全国社会福祉協議会

この保険は、全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

〈引受幹事保険会社〉日本興亜損害保険株式会社

社会福祉施策の充実・予算拡充を

県社会福祉予算対策協議会
26項目の要望書を県知事へ提出

沖縄県社会福祉予算対策協議会（予対協）の代表団11名は、9月17日、県庁に上原良幸副知事を訪れ、「平成23年度県予算に対する要望書」を提出した。（写真）

予対協は、県内451の民間社会福祉施設・団体で構成される組織で、県社協に事務局を置いている。種別毎に8つの部会で構成される組織で、社会福祉施策の充実と予算確保に向けた運動を行うことを目的としている。

予対協の新垣雄久会長は、「国内外の不景気や財政難の影響を受けやすい社会的弱い立場の方々のため、特段の配慮をお願いしたい。」とあいさつ。県知



事の代理で出席した上原副知事へ全26項目の要望書を手渡した。今回の要望では、県地域福祉支援計画の策定や、民生委員の確保・養成、3障害一元化に対

する体制強化等、6項目を新規案件として提出した。

予対協代議員で県民児協の宮國泰雄会長は、「民生委員の欠員が生じないよう、担い手確保に努めるほか、任期途中に辞めてしまわないよう、やりがいづくりや環境整備についても協力いただきたい。」と県の理解を求めた。

上原副知事は、「喜びを与え、悲しみを分かち合える社会の実現が行政の使命。国や市町村へも働きかけながら、福祉行政を推進して参りたい。」と述べた。なお、予対協では、市町村に對しても予算等に関する要望書を提出している。

県総合福祉センター 温水洗浄便座を設置

東棟1階身障者用トイレ

沖縄県総合福祉センターでは、一部トイレに8月から温水洗浄便座（ウォッシュレット）を導入した。

これは、「温水洗浄便座を利用したい」との利用者からの要望に応じて設置されたもので、手始めに、最も車いす利用者の

使用頻度の高い、1階Aコア身障者用トイレに導入した。

トイレには既にオストメイト対応のシャワーも設置されており、誰もが快適に使用できるセンターを目指して、環境整備、利便性の向上に努めている。



▲より快適に改良されたトイレ

町民・関係者ら200人余りが 「ちむぐくる館」の開館を祝う

（南風原町）

南風原町宮平に「町総合保健福祉防災センター」（愛称「ちむぐくる館」）がこの度開館した。

9月14日の開所式および祝賀会には、町民や関係者ら200人余りが出席し、新センターのオープンを祝った。

同センターには、町保健福祉課や町社会福祉協議会が入居する他、健康増進室やホール（子育て支援室）、調理実習室等があり、地域における保健福祉活動の拠点としての活用は町民の



▲関係者に見守られ、テープカットする城間町長（右から2人目）ら

大きな期待が寄せられている。

また、災害時には町民の避難所としても活用される。

祝賀会であいさつにたった城間俊安町長は、「町民にとって、より便利に、快適になった新センターを開館することができた関係者が一丸となってこの館に魂を込めていきましょう。」と関係者を激励し、池田幸榮町社協会会長は、「地域の福祉力を高め『ちむぐくるでつくる福祉のまち南風原』を目指したい。」とあいさつした。



▲グループワークでは活発な意見交換が行われた。

また、グループワークでは、組織紹介やボランティアへの想いを紙芝居仕立てで発表するなど、楽しく活動を共有できる

を作っているところは多くない。ボランティアを受け入れる際、基本的なルールを示した印刷物があれば、受入れが円滑になると同時にリスクマネジメントに役立つ。」など、示唆に富んだ講話が展開された。

この講座は、さまざまな場面で活動（活躍）しているボランティアを上手に受入れるための基礎講座を毎年開催するもの。今年度は、8月と2月の2回連続講座で、各種福祉施設や病院、教育関係、NPO、社協などの幅広い分野でボランティア受入れを担当している職員54名の参加があった。

講師の桑原氏からは「施設や病院などで利用者向けのパンフレットはあるが、ボランティア（協力者）向けのパンフレットを作っているところは多くない。ボランティアを受け入れる際、基本的なルールを示した印刷物があれば、受入れが円滑になると同時にリスクマネジメントに役立つ。」など、示唆に富んだ講話が展開された。



両研修会講師 JPCom代表 桑原 英文氏
フィリピンの地域開発、コミュニティ・ケアを主な活動とし、全国各地で住民主体の防災と福祉のまちづくり活動を推進している。

場となった。

参加者からは「ボランティア用パンフレットを作成してみた。」「今回の資料を活用して組織全体でボランティアを受入れる意味について考えたい。」などの声が寄せられた。

日頃は、出会う機会の少ない各組織のボランティア担当同士の情報交換・交流の場となった。次回講座は、平成23年2月9日、同講師による「リスクマネジメント」をテーマに開催を予定。※参加申込みは締切済。



▲マニュアル策定に必要な視点について理解を深めた。

次回、平成23年2月10日にマニュアル作成のフォローアップ研修を開催する。

最後に、桑原氏は「マニュアル策定がゴールでない。しかし、組織として一つの目標に向かっていくためには、マニュアルは無いよりはあったほうが良い。」とマニュアルの必要性を強調するとともに、日頃の地域福祉活動の重要性を指摘した。

この研修会は、日頃から行う地域福祉活動が災害時の要援護者支援や被災地復興において力を発揮できるよう、市町村社協での災害対応マニュアル策定を推進することを目的に開催された。2回にわたり行われる。

次に、各市町村社協に分かれ、チェックシートをもとに、自身の組織体制や地域課題を振り返った。災害時の緊急性と重要性を整理することでマニュアル作成に向けて「まず、やるべきこと。できること。」について理解を深めた。

いざ！という時に備え・
『市町村社協災害マニュアル作成研修会』
(9月9日開催)

平成22年度 沖縄県内

「介護の日」各団体の取組み・実施事業

「介護の日」とは？

“介護についての理解と認識”を深め、介護従事者・介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者、家族、介護従事者、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民へ啓発を重点的に実施するための日として、平成20年7月に厚生労働省は「11月11日」を「介護の日」と制定しました。

沖縄県内での取組みは？

11月2日(火)
11月3日(水)

「介護の日」記念 三好春樹講演会【先島地区】

期 日：八重山地区 11月2日(火)
宮古地区 11月3日(水)
時 間：八重山地区 18:30～20:30
宮古地区 14:00～16:00
講 師：三好春樹
演 題：「認知症老人のケア」
参加対象：介護従事者並びに一般県民
場 所：八重山地区 石垣市健康福祉センター
宮古地区 JAおきなわ宮古地区本部
実 施：沖縄県福祉人材研修センター
電 話：098-882-5703

11月11日(木)

「介護の日」記念 認知症特別講演会【本島地区】

期 日：11月11日(木)
時 間：15:00～17:00
講 師：永田久美子
演 題：「若年性認知症・本人と家族を地域で支える」
参加対象：介護従事者並びに一般県民
場 所：浦添市てだこホール
実 施：沖縄県介護実習・普及センター
電 話：098-882-1484



●月●日(●)

介護に関する電話相談

期 日：11月20日(土)
時 間：10:00～17:00
内 容：介護に関する電話相談
実 施：介護を考える女性の会
電 話：098-862-5622

12月1日(水)

介護サービス業で グッジョブフォーラム

期 日：12月1日(水)
時 間：14:00～16:00
内 容：基調講演・トークセッション
袖山卓也 等
参加対象：一般県民、福祉系養成校学生、
介護従事者
場 所：那覇市ぶんかテンプス館
実 施：沖縄県産業政策課
電 話：098-866-2324

10月1日～
12月31日

「介護の日」記念 ふれあいタオル寄贈事業

期 日：10月1日～12月31日
内 容：県内の小・中・高校へ未使用
タオルの収集を呼びかけ、集
まったタオルは県内の福祉施
設や在宅介護世帯へ配分
参加対象：県内小・中・高校 468校
実施協力：77校(24市町村) 10月末現在
参加人数：32,957名
実 施：沖縄県福祉人材研修センター
電 話：098-882-5703

11月11日(木)

介護に関する アンケート等の実施

期 日：11月11日(木)
場 所：浦添市てだこホール
内 容：介護に対するイメージ
等のアンケート、HP
公開による広報
実 施：沖縄県介護福祉士会
電 話：098-887-3344

11月11日(木)

介護福祉士養成校の 活動パネルの展示

期 日：11月11日(木)
場 所：浦添市てだこホール
内 容：介護福祉士養成校4校の
活動パネルによる広報
実 施：沖縄県介護福祉士養成校
連絡会
電 話：098-933-8788(ソーシ
ヤルワーク専門学校内)



県民全体で「介護」について理解を深め、介護をより身近なものとして考えよう!

沖縄県介護実習・普及センター

☆福祉用具について

福祉用具とは、障害者の生活・学習・就労と高齢者、傷病者の生活や介護の支援のための用具・機器のことです。福祉機器ともいいます。

皆さんによく知られているのは、「車いす・杖・ベット」などがあると思いますが、福祉用具は、身の周りにいっぱいあります。

例えば、使う本人に合わせた「メガネ」や「コンタクトレンズ」なども福祉用具のひとつです。細かい物から大きい物まで福祉用具は、数えられないほどいろいろな種類の用具があるのです。

☆「足いざぎ」車いすの紹介

リハビリ用足こぎ車いす「プロフアンド」は、脳卒中で半身が麻痺した方、腰痛、膝関節痛などで歩行困難な方でも、自分の両足でペダルをこぎ自由に走り回ることのできる最先端のチェアサイクルです。

また、足の筋肉も使うほか、姿勢バランス訓練や空間認知訓練などの全中枢神経系を使った総合的なリハビリ訓練が行えるため、高いリハビリ

リ効果が期待でき、楽しくリハビリ訓練に取り組めます。

【5つの特徴】

- ①歩行が困難な方でも、どちらかの足が少しでも動かせれば自分の両足でこげる可能性があります。
- ②無理のない筋力トレーニングが可能です。
- ③乗り降りがスムーズです。
- ④その場旋回の実現
- ⑤高い安全性

※カラーは、レッドとイエローの2色で、重量は、14・2kgです。

※福祉用具展示場にて試乗もできますので、詳しくは、沖縄県介護実習・普及センターまでお問い合わせください。



第37回国際福祉機器展 ☆H.C.R.2010☆ レポート

平成5年10月に呼称の統一と定義が定められたことから毎年10月1日は「福祉用具の日」となっています。これを記念した福祉用具のイベントが毎年、東京ビックサイトで行われています。

今年で37回目を迎えた「国際福祉機器展」（通称H.C.R.）は国内外の出展数が常時2万以上と福祉関係では大規模のイベントとなっています。去年は、介護ロボットが注目を浴びていましたが今年は車椅子に注目が集まりました。

WCV（ホイール・チェア・ビークル）とは、解りやすいと、電動バイクのようなもので、ヘルメット着用で「公道を走れる」のです。

もちろん、運転には普通自動車免許が必要になります。

また、高齢者・障害者向けの軽量車椅子として、ヨーロッパ生まれの「パンテラ」という車椅子がありますが、今年パンテラ社が発表した「パンテラX」は、4・2kgと超軽量でビックリしましたよ！

一般の車椅子の重量は、タイプにより重さは異なりますが約12〜17キロと重めで、標準タイプの軽量型（10kg）と比較してもかなり軽量となっています。また、沖縄県総合福祉センター東棟1階の福祉用具展示場にパンフレットをご用意しておりますのでぜひ、ご来館ください。職員一同お待ちしております。

【お問い合わせ】

沖縄県介護実習・普及センター
電話 098-882-1148
FAX 098-882-1148

あなたも介護講座を受講しませんか？

一般県民対象講座

はじめようシリーズ2

- ① 1/12（水）「福祉用具編」（ベッド・排泄編）
- ② 1/19（水）「着脱編」
- ③ 1/26（水）「入浴編」
- ④ 2/2（水）「食事編」
- ⑤ 2/9（水）「住宅改修編」

- ・定員 16名（申し込み順）
- ・時間 13時30分～16時30分
- ・会場 沖縄県総合福祉センター
- ・料金 200円/1講座（全5回）
当日、現金でお支払いください
- ・受付 12月13日（月）朝9時より（電話・Faxにて）

第29回全国社会福祉施設経営者大会（沖縄大会）

全国社会福祉施設経営者大会が11月24日（水）～25日（木）、宜野湾市の沖縄コンベンションセンターをメイン会場に開催されます。

この大会は、「これからの社会福祉法人経営のあり方をめぐって」をメインテーマに、分科会やシンポジウム等を通じて今日求められる社会福祉法人の役割や社会の要請に応える社会福祉法人経営のあり方を展望するものです。

特別講演には、大阪大学社会経済研究所所長・教授で内閣府本府参与の小野善康氏をお招きし「成熟社会の経済財政政策のあり方」をテーマにお話いただきます。

多くの福祉関係者のご参加をお待ちしています。

▼主催 全社協・全国社会福祉施設経営者協議会、沖縄県社協・沖縄県社会福祉施設経営者協議会

▼期 日 平成22年11月24日（水）～25日（木）

▼会 場 沖縄コンベンションセンター他

▼参加費 ・経営協会員法人からの参加者1名あたり25,000円／非会員法人等からの参加者1名あたり35,000円

ホントにおすすめの本 ～ライブラリー新刊紹介～

『大人の発達障害 アスペルガー症候群、AD/HD、自閉症が楽になる本』



この本では、現役の精神科医である著者が具体的な事例を紹介しながら、その原因となる発達障害についてわかりやすく解説しています。

「ちょっと変わっている」方々との良好な人間関係を築くためには、家族や周りの人、また本人自身が、発達障害についての理解を深めることが大切です。これまでずっと疑問に感じていた彼らの不思議な行動や言動の謎が「なるほど！」に変わる、オススメの一冊です。

社会福祉ライブラリー（総合福祉センター東棟2階）で貸し出しています。

著 者：備瀬哲弘
行：株式会社マキノ出版
出版年月：2009年3月（第1刷発行）
定 価：1,300円

前号の

表紙作品の生みの親は…

前号の表紙写真は、那覇市内のお店に飾ってあったイラストレーター仲宗根浩さんの作品を撮影したものでした。見る人に笑顔や元気を与える癒しの作風は、県内外で活躍される仲宗根さんのお人柄そのものです。そんな仲宗根さんの作品に魅了され、思わずシャッターを切った儀間朝義さんの作品が選ばれ、表紙を飾ったのでした。



寄付・寄贈者芳名

（8月1日～9月30日）

- 沖縄タオル工業株式会社様
- 合資会社沖縄実業様
- 福山商事株式会社様
- かねぐすく保育園様
- 琉球リハビリテーション学院福祉学科第5期生様

表紙の写真

作品名

「不寝の番のシーサー」



撮影者 儀間生子さん（那覇市）

夜の首里城・歓会門を見守るシーサー。この作品は、かりゆし長寿大学第18期卒業生の儀間生子さんの作品です。闇夜に浮かび上がる城門の荘厳なたたずまいが印象的な作品です。

大学校を通じて知り合った学友とは現在も作品を見せ合う仲で、「喜びを分かち合える仲間がいるから写真を続けられる。」と話す儀間さん。

息子さん達と訪れた旅先でもカメラを手放さず、普段からきれいな景色を撮りだめていらっしやるそうです。

編集後記

沖縄県社協では幅広いさまざまな事業を実施しています。職員の奮闘ぶりが本紙を通じて少しでも伝われば幸いです。（伊）